

I. 基本方針

本法人は、2018年に定めた長期ビジョン「VISION2024SEIKA」において、5つの軸に沿った大学づくりをすすめていくことを、社会に対する約束として発表しています。

VISION2024SEIKA
表現の大学
リベラルアーツの大学
グローバルな大学
永続する大学づくり
不断の教育改革

このビジョンを実現するため、2018年度から2020年度までの第一次に続き、2021年度から2024年度までの第二次中期計画として「中期計画SEIKA2024」を設定しました。この第二次中期計画は、「教育・研究領域」「管理・運営領域」「財務領域」の3つの領域において、以下の目標を立てています。

教育・研究領域	管理・運営領域	財務領域
a.新学部、新プログラム開設と全学の教学改革の完成 b.学修者本位の教育の確立 c.教学マネジメントの確立 d.学生自らによる学修支援の体制と環境の整備 e.高大接続（入試）改革の継続的遂行 f.withコロナ時代のグローバル教育の展開 g.芸術学部・デザイン学部・マンガ学部の改革 h.大学院改革の構想・準備 i.社会（地域）課題解決のための産官学連携推進	a.学内の意思決定と業務遂行上のためのコミュニケーション回路の整備 b.構成員の権限と義務の整備 c.ダイバーシティの推進 d.人材育成システムと目標管理制度の確立 e.人事マネジメントの確立 f.報酬制度の適正化 g.DXによる教育と業務の改革 h.2024年度までの新2棟を含めたキャンパス活用の推進 i.次期ビジョンの策定	a.確実な収入の確保 b.収支における収入超過の確保 c.計画的な支出管理

第二次中期計画の1年目であった2021年度には、第一次中期計画を通して準備を進めてきた新2学部と新プログラムおよび新共通教育カリキュラムを含めた全学的な新教育体制をスタートしたほか、明窓館の建て替えを実施しました。

第二次中期計画の2年目にあたる2022年度は、2021年度にはじまったこれらの施策を推し進めていくこととなります。一方で芸術学部、デザイン学部、マンガ学部の改革や大学院

の改革など、2021年度に方向性が確認された既存の学部・研究科においてもよりよい教育・研究環境の整備に向けた改革・改善を進める必要があります。また、2021年度に立て替えた明窓館に関しては、多人数収容可能なホールの竣工や多国籍料理を通じた文化体験ができるグローバルカフェの営業開始を予定しており、VISION2024SEIKAで示した「グローバルな大学」「表現の大学」「リベラルアーツの大学」の象徴する校舎として完成します。

第二次中期計画と各年度の全事業は、毎年度の入学者数確保と退学率の改善による収入の安定化とその継続を基盤としてはじめて実行可能となります。本学の入学定員充足率は2013年度以降低迷を続けていましたが、教学内容や入試方法の改革、積極的な広報活動等により2017年度以降回復に転じ、2021年度には全学部で97.6%まで回復しました。しかし、2018年度からの4年間の在学学生数によって算出される収容定員充足率は過去の未充足分の影響により全学部で8割強に留まり、いまだ経営的に厳しい状況が続いています。また、18歳人口の減少が今後も確実なうえ、2019年度末から続く新型コロナウイルス感染症拡大により、未だ多くの外国人留学生在が入国できないなど、教育体制や学生支援等のあり方にもさまざまな変化が迫られています。それらの影響は外国人留学生の募集活動や海外留学プログラムを持つ学部の学生募集にも及ぶことが想定され、2022年度も厳しい収支状況が見込まれます。

こうした状況から本法人では、2022年度の法人全体の事業計画立案のため、「学生生徒等納付金を確実に確保する」、「教学マネジメントの体系化とPDCAサイクルの設計」、「明窓館・共有スペースの活用と管理体制の整備等」、「教学の質を高め、働き方を改革するDX」という4つの重点方針を設定しました。全事業においてこの方針との適合性や事業達成状況をはかるプロセス管理指標等の業績をもとに予算配分や見直しを厳密に行い、各施策の推進と財政の健全化との両立を図っています。

II. 事業計画概要

II-1 重点方針

(1) 学生生徒等納付金を確実に確保する

新型コロナウイルス感染拡大の収束が見込めない中、定員充足に大きな影響を与えてきた外国人留学生の確保は依然、厳しい見通しです。国内を対象とした大学・入試の広報強化などを通じ、確実に国内受験生の確保に取り組みます。

現在も国外在住の外国人留学生の入国は困難な状況が続いていますが、2022年度も少なからぬ外国人留学生が入学を予定しています。本学は、日本語学校教職員による「自校の留学生に勧めたい進学先」として「2021年日本留学 AWARDS (私立大学文科系部門)」を受賞するなど、留学生を受け入れる大学として高い評価を得ています。昨年リニューアルした英語版のホームページの充実やオンラインイベントの開催を重ねるとともに、留学生向けのガイダンスなどにも積極的に参画することで、多様な国・地域からの留学生の受け入れに引き続き努めます。

(2) 教学マネジメントの体系化と PDCA サイクルの設計

教学運営会議、教務委員会、FD 委員会などの各種会議体を軸とし、全学レベル・学位プログラムレベルでの教学マネジメントに体系的に取り組んでいきます。本学では長年、入学時、在学時、卒業時のアンケートを学生向けに実施してきました。さらに 2021 年度からは学修成果の可視化につながる取り組みとして、GPS-Academic を全学部の 1 年次に実施しています。2022 年度もこれを実施し、他大学との比較や自己分析、その後の学修計画に活かすための履修指導などに活用していきます。

これらを通じて主観と客観を組み合わせた学生 1 人 1 人の傾向と課題を把握するとともに、学位プログラム単位での状況を把握し、法人および大学の PDCA サイクルと組み合わせる中で、より体系的かつ計画的に教学の改善活動に取り組んでいきます。

(3) 明窓館・共有スペースの活用と管理体制の整備等

2021 年度に開設した明窓館は、ホールとグローバルカフェが 6 月に竣工を予定しており、VISION2024SEIKA における「グローバルな大学」「表現の大学」「リベラルアーツの大学」を象徴する建物として完成することとなります。この明窓館の運営に加え、2020 年度に定員を見直した芸術学部、デザイン学部、マンガ学部と、2021 年度に新たに開設した国際文化学部、メディア表現学部による施設の割り当てや教室配当などに関し、教育環境や学生生活の向上に向け、引き続き改善に取り組んでいきます。

(4) 教学の質を高め、働き方を改革する DX

新型コロナウイルス感染拡大は依然として国内では収束の見込みが立っていません。with コロナ時代の新しい常態（ニューノーマル）においては、従来の教育、働き方を見直した新たな教育・働き方が求められています。教学においては、オンラインと学内施設を併用した

授業に取り組み、国外留学予定先ともオンライン上での交流をいっそう促進することで、学生の学びの質を向上する必要があります。そのため、教学システムである SEIKA PORTAL だけではなく、さまざまな学習管理システム(LMS)の調査なども進めることで、物理的側面に加え、仮想的側面も含めた学修環境の改善に努めます。

一方、新型コロナウイルスは働き方にも大きな影響を与えました。本法人においても出勤と在宅勤務とを併用し、感染が拡大しても業務に支障が生じないための勤務体制を整備しています。2022年度はさらに、DX化の一環として業務上のクラウドサービスを導入し、業務の効率化、ペーパーレス化を促進するなど、1人1人の業務をスリム化することによって、働き方の改善につなげていきます。

III. 主な事業計画

III-1 法人

(1)経営・財務

- 重要達成管理指標目標値達成のためのプロセス管理
- 法人全体の事業と自己点検評価活動を連携した PDCA サイクルの運営
- 新たな財源確保に向けた寄付募集体制の改善
- 大学認証評価の受審

(2)組織管理・運営

- 事務局再編による各部門の役割・責任・権限の明確化
- 教職員研修の体系化による人材育成体制の改善
- クラウド型人事労務ソフト等の導入によるペーパーレス化の推進と業務効率化
- 教職員人事計画に基づく厳密な採用の実施とダイバーシティ配慮

III-2 大学

(1)教学改革・教学運営体制整備

- 既設学部3つのポリシー、学修目標の具体化と、学修目標に沿った科目・教育課程の再検討
- 学修成果の測定・把握方法明確化のためのアセスメントプランの運用
- 授業評価/キャンパスライフ/卒業時アンケート結果等、教学 IR データを活用した点検とそれをふまえた FD・SD 活動による改善サイクルの構築
- 2021年度の大学院改革検討結果をふまえた、2025年度開設予定の新研究科設置準備組織の組成

(2)教育実施

- 国際文化学部、メディア表現学部、人間環境デザインプログラムの着実な運営
- 全学的な新共通教育科目群の運営とクォーター制度の継続的な運用

